

電気通信大学 平成18年度シラバス

授業科目名	国際文化演習		
英文授業科目名	Seminar in Intercultural Studies		
開講年度	2006年度	開講年次	2年次
開講学期	4学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	総合文化科目-言語文化科目-言語文化演習科目		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	宇田川 尚人		
居室	非常勤講師		

公開E-Mail	授業関連Webページ
signifiant@x.email.ne.jp	

<p>【主題および達成目標】</p> <p>主題： グローバリゼーションとテロリズム。善悪の基準の崩壊とナルシスト的神経症。技術革新の嵐とメディアの中で方位なく自己増殖する「結線された社会」。これらのなかで我々は今、崩れゆく古い価値観に直面し、文化「理解」の本質的な見直しを迫られている。時代や状況に依存することのない人間本来の生き方と、先端技術や経済機構が突き付ける極めて「時代的」「地域的」な問題状況の狭間で、何が今見直され、新たに問われ、基礎付けられなければならないのか？講義では、こうした問題提起に基づいて、単に東西の多様な価値観・文化を紹介するのみならず、（そもそも自らとは異なる「他者」なくして「文化」は存立しえないのだから）異文化を「理解する」とは何を意味するのかという問を、哲学的な次元にまで遡って明らかにしてゆく。</p> <p>達成目標： 知識や思考方法の押し売りをする気はない。講義では、受講者一人ひとりが自ら主体的に考え・判断するための素材と知識とを包括的に提供してゆきたいと考えている。達成目標は、従って、各自が演習を通して自らの「文化理解」をシェイプアップし、少しでもこれまで気づけなかった「世界」の断片が見えるようになれば、それでよいと考える。</p>
--

<p>【前もって履修しておくべき科目】</p> <p>特になし</p>
--

電気通信大学 平成18年度シラバス

【前もって履修しておくことが望ましい科目】

特になし

【教科書等】

特定の教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

【授業内容とその進め方】

詳細は未定。今の所予定しているのは、以下の内容。

- I. 哲学的な「文化理解」とは何か? — 問題提起——差異化への眼差し
- II. 構成されるリアリティー ——— 差異化する「事実」と「現実」の世界（カントの文化論）
- III. 経験のパラドックス ——— 歴史理解の問題と文化（ヘーゲルの文化論）
- IV. ニヒリズムと文化 ——— 価値喪失の経験と文化（ニーチェの文化論）
- V. 自己と世界 ——— 新たな自己のアイデンティティへ向けて（ハイデガーの文化論）
- VI. 他者とは何か? ——— 欲望・暴力・国家と文化（レビナスの文化論）

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

評価方法：平常点（リアクションペーパー）＋レポート＋出席率によって総合的（3：5：2）に評価する。

評価基準：2/3以上の出席率と50点以上のレポートの成績を最低基準とする。

【オフィスアワー：授業相談】

適宜相談に応じるが、授業後等に事前にアポイントを取ることが望ましい。

【学生へのメッセージ】

授業への積極的な参加を期待する。

電気通信大学 平成18年度シラバス

【その他】
「演習」という性格上、受講希望者が多い場合は、人数を制限する可能性もある。